

GLIS-3000

ランプ交換マニュアル

1、はじめに

紫外線ランプは消耗品ですが、想定された設計上の稼働時間である 1,500 時間より多くの場合、かなり長く稼働しています。GLIS-3000 では紫外線ランプは主電源と連動して常時点灯し、シャッターでそのオン・オフを管理しています。そのため、シャッターなどの他の原因で紫外線が点灯しないことも多いです。まず、ランプが点灯していないことを確認してから、ランプ（の注文および）交換を行ってください。

紫外線ランプはガラス部分が非常に脆く、破損した場合には修理は不可能です。くれぐれも注意して行って下さい。また、手の油の付着などでランプが破損しやすくなる可能性もあり、申し訳ないですが、お客様でランプの交換を行った場合、保証がないことをご了承ください。

2、紫外線ランプの動作確認

2.1 紫外線が出ているか、の確認

紫外線ランプの点灯を確認するには、コピー用紙など蛍光するものをセットし、Scan の動作の中で背景画像としては映るものの、その後の蛍光画像でコピー用紙が蛍光していなかったら、紫外線が出ていない状態です。（その状態で Scan を行うと、最初の背景画像用のライトが点灯し背景の画像は映りますが、その後の蛍光(左上)、燐光(左下)の画像が真っ暗になります。）

2.2 必要な工具の準備

ランプの稼働を確認するにはプラスドライバーが必要です。また、ランプの交換には 2.5mm の六角レンチが必要になります。なお、背面に交換用の小窓がついていない初期型の場合、後ろの板をすべては外す必要があり、ランプ交換を行うことは申し訳ないですがお勧めできません。

2.3 ランプの状態の確認

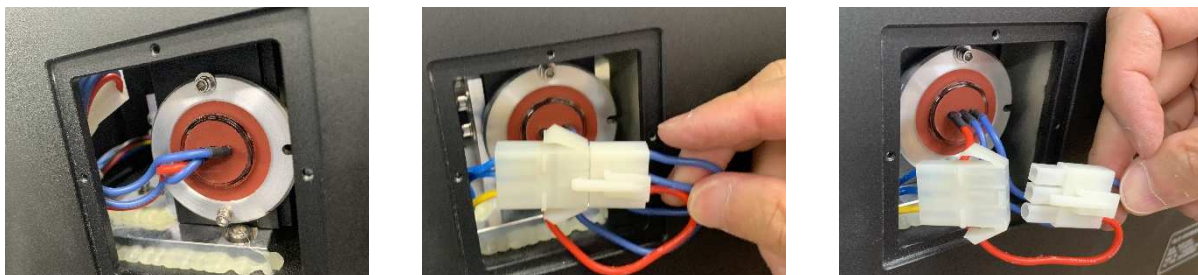
まず、ランプが点灯しているか、確認します。背面の左中央にある小窓のネジをプラスドライバーで外してください。（写真左）小窓からランプが見えます。コードが出ている周辺からライトが漏れるリング状の部位があります。写真中央のものはランプが点いてない状態、写真右はランプが点いている状態です。主電源を入れて、10 秒程でランプが点くはずですが、点灯していない場合、ランプもしくは点灯装置の故障が考えられます。ランプが点いているのに、紫外線が出ていない時はシャッターの故障です。修理をご依頼ください。



3、ランプの交換

3.1 ケーブルを外す

必ず主電源が切れた状態であることを確認してください。 感電する恐れがあります。ランプにつながっているケーブルを引き出してください。ケーブルの先にソケットがあります。ソケット中央の爪を押さえて、ソケットを外してください。かなり力がいらしますので、必ずソケット部分を持って引き抜いてください。



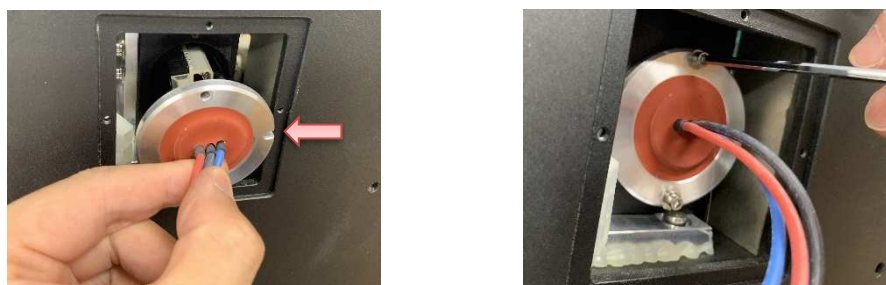
3.2 ランプを外す

装置側のケーブルを横にどかしておいてください。写真で赤く印で示した、ランプの上下に止まっているネジを、2.5mmの六角レンチで外してください。ランプは簡単に取れる状態になりますので、そっとまっすぐランプが周囲に当たらないように引き抜いてください。



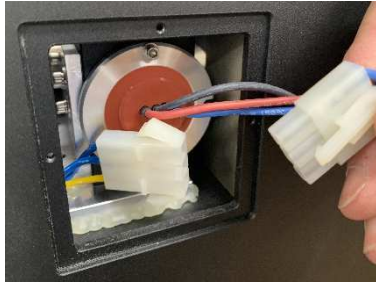
3.3 新しいランプを取り付ける

新しいランプを箱から出し、取り付けます。ガラスの部分は汚れがつくことで壊れやすくなりますので、ソケットの部分を持って作業してください。また、ランプには方向があり、外周で穴が空いている方向を右にしてください。ランプのガラスが周囲にぶつからないようにして取り付けてください。その後、上下の2つのネジを六角レンチで取り付けます。



3.4 ケーブルを接続する

新しいランプのソケットを、本体側のケーブルに接続します。正しい向きでないと刺さらないようになっていますが、青-青、黄色-赤のケーブルを合わせるように接続します。また、ケーブルが真っ直ぐでないと刺さりにくいので、うまく合わせてください。その後、2.3と同じように電源を入れて、動作を確認してください。ケーブルがちゃんと接続されていて点灯しない場合はなにか故障が考えられます。



3.5 ケーブルを収納してから、蓋を戻す

蓋を締めるため、ケーブルをケース内部にしまってください。ランプは点灯時にかなり発熱します。そのため、ケーブルがランプに接していると、被覆が溶けて故障の原因となります。ケーブルはランプに触れないように、左側に戻しておいてください。その後の小窓の蓋を締め、プラスチックドライバーでネジを戻せば完了です。お疲れさまでした。

